

令和8年度春季入学春季募集 熊本県立大学大学院 アドミニストレーション研究科  
博士後期課程 社会人特別選抜入学試験問題 小論文 出題意図

・解答例

AI 需要の急拡大に伴う半導体メモリー価格の高騰は、デジタル製品および AI 関連事業の将来像に大きな影響を与えている。特に注目すべき点は、当該影響が産業間で非対称的に現れている点である。

AI 向けデータセンター需要の増加により、DRAM や NAND といったメモリーは供給逼迫によって価格が上昇しており、これらを部品として使用するゲーム機やスマートフォンなどの民生機器メーカーは、製造コストの上昇に直面し、価格転嫁か利益率低下の選択を迫られることになる。さらに、製品価格の上昇は、消費者の購買行動にも影響を及ぼし、需要の抑制や製品ライフサイクルの長期化を招く可能性が高い。そのため、デジタル製品市場は、従来の量的拡大とは異なるコスト制約下での選別的需要へと移行すると考えられる。

一方、AI 関連事業は、引き続き高い成長が見込まれる。ただし、その恩恵は半導体やクラウドといった分野に集中する傾向が見てとれる。AI は巨額の設備投資と計算資源を必要とする資本集約的な産業であり、結果として市場は寡占化しやすい構造を持つ。そのため、AI は単に新たな需要を創出するだけでなく、既存産業にコスト上昇というマイナスの影響をもたらし、産業間の格差を拡大させる要因となる可能性がある。

以上を踏まえると、デジタル関連産業において、AI を中心とした資源配分の再編が起こることを念頭に置く必要がある。すなわち、メモリーや計算資源といった希少な生産要素が AI 関連事業に優先的に配分されることで、非 AI 関連事業は相対的に資源が不足することになる。このような構造は、従来の技術革新がもたらした需要拡大型の成長とは異なり、供給制約に端を発する再編を特徴とする。

また、企業行動にも変化が生じると考えられる。具体的には、部品調達の安定化や内製化、長期契約の締結といったサプライチェーン戦略の重要性が高まり、ハードウェア依存を低減するため、クラウドやサブスクリプション型サービスへの移行が進展する可能性がある。さらに、市場における評価も、単なる成長性ではなく、資源確保能力やコスト耐性といった観点をより強く反映するようになると考えられる。そのため、AI 時代の企業評価や市場反応を分析する際には、従来の需要側を中心とする考察に加え、供給制約とサプライチェーンの観点を組み込むことが不可欠であると考えられる。(959 字)

・出題意図

本問題は、AI 需要によるメモリー価格高騰という具体的事象を手がかりに、デジタル関連産業間の非対称的影響や供給制約の視点に基づいて将来の市場構造を論理的に考察し、出題者に説明する能力を問うている。